



第7回

びわ湖の森の生き物研究会 シンポジウム

開催
日時

2015年9月6日(日)

13:10 ~ 16:40 (受付: 12:45 ~)

東近江の川を活かす！ 森里湖のつながり

— 地域再生と続く世代の未来を拓く —

かつてアユ釣りでにぎわった愛知川 photo: K.Onishi

琵琶湖の東部に位置する東近江市は、鈴鹿山系から琵琶湖までをその圏域とし、その中心に愛知川が流れています。愛知川は、かつては《アユの川》として全国に知れ渡っていましたが、最近ではその面影が失われ、流域に暮らす人々の関心も川から離れた状態となっています。

川は単に水を流す排水路ではなく、森の恵みを湖へと運び、湖で育った生き物がさかのぼって森を肥やす動脈です。川は多様な生き物が生息する場所であり、その恵みや涼を求めて人々が集う場です。琵琶湖の生き物のにぎわいを取り戻すためには、びわ湖の森である鈴鹿山系と琵琶湖が愛知川を通じて有機的につながっていることが重要です。

愛知川流域の人々が愛知川に関心を持ち、愛知川が生き物と人の賑わいを取り戻して森と琵琶湖をつなぐ役割を再生させることを目的に、シンポジウムを開催します。

基調講演

13:15~14:15

森里湖のつながり

— 地域再生と続く世代の未来を拓く —

田中 克 (京都大学名誉教授)

略歴 1943年、滋賀県大津市生まれ。京都大学大学院農学研究科および元水産庁西海区水産研究所に在学・在職中、主に日本海のヒラメ、マダイ、有明海のスズキ仔稚魚の初期生活史研究に取り組む。京都大学フィールド科学教育研究センター長などを経て、現在、舞根森里海研究所長(気仙沼)。2012年より、マザーレイク21計画学術フォーラム委員。

自身の研究と経験から、森林生態系と沿岸浅海域との関連性に着目し、自然のつながりと人の心の再生を目指す「森里海連環学」を提唱、その理念のもとに有明海再生ならびに三陸の海の震災復興に関わっている。

事例紹介

14:20~15:20

愛知川に生き物と人のにぎわいを取り戻す

藤岡 康弘
(びわ湖の森の生き物研究会 事務局長)

地域の方々と協働した川づくり

柳川 晃
(独立行政法人水資源機構 技術管理室長)

森と水政策のめざすもの

山口美知子
(東近江市市民環境部森と水政策課 課長補佐)

パネルディスカッション

15:30~16:30

愛知川復活！—東近江の川を活かす—

コーディネーター 山崎 亨 (びわ湖の森の生き物研究会)

パネリスト 田中 克 (京都大学名誉教授)

柳川 晃 (独立行政法人水資源機構)

小椋 正清 (東近江市長)

田中 進 (愛知川清流会)

藤岡 康弘 (びわ湖の森の生き物研究会事務局長)

参加費：無料、事前申し込み不要

会場：アピアホール

滋賀県東近江市浜野田町3-1

ショッピングプラザ アピア4階

TEL.0748-24-5700

交通のご案内

● 近江鉄道八日市駅下車、徒歩5分



主催：びわ湖の森の生き物研究会、東近江市

後援：滋賀県、(公社)滋賀県獣医師会、滋賀地方自治研究センター、サンライズ出版

